

日本大通り

神奈川県横浜市

01 リンクとプレイス

交通ネットワークを考え、開港シンボル軸として歩行者のメインストリートに位置づけられている

03 シークエンス

横浜公園から港に向けた風景がまっすぐ通じて、海につながる(通景空間の確保)。また、結節点から山下公園に向けて、連続的な歩道が用意されている(都心プロムナード)

28 親しみ・愛着のある場

単に歩きやすいだけでなく、沿道の歴史的建造物の保全活用や、震災後に植えられたイチョウ並木を活かすなど、自然文化を大切にして、街の誇りを示す街路となっている

23 身近な緑の保全・創出

イチョウ並木と植栽帯には、豊かな緑が施されている

06 アフォーダンス

植栽防護柵が、自然と座りたくなるデザインによって「ベンチ」の役割を果たしている

24 集える場の創出

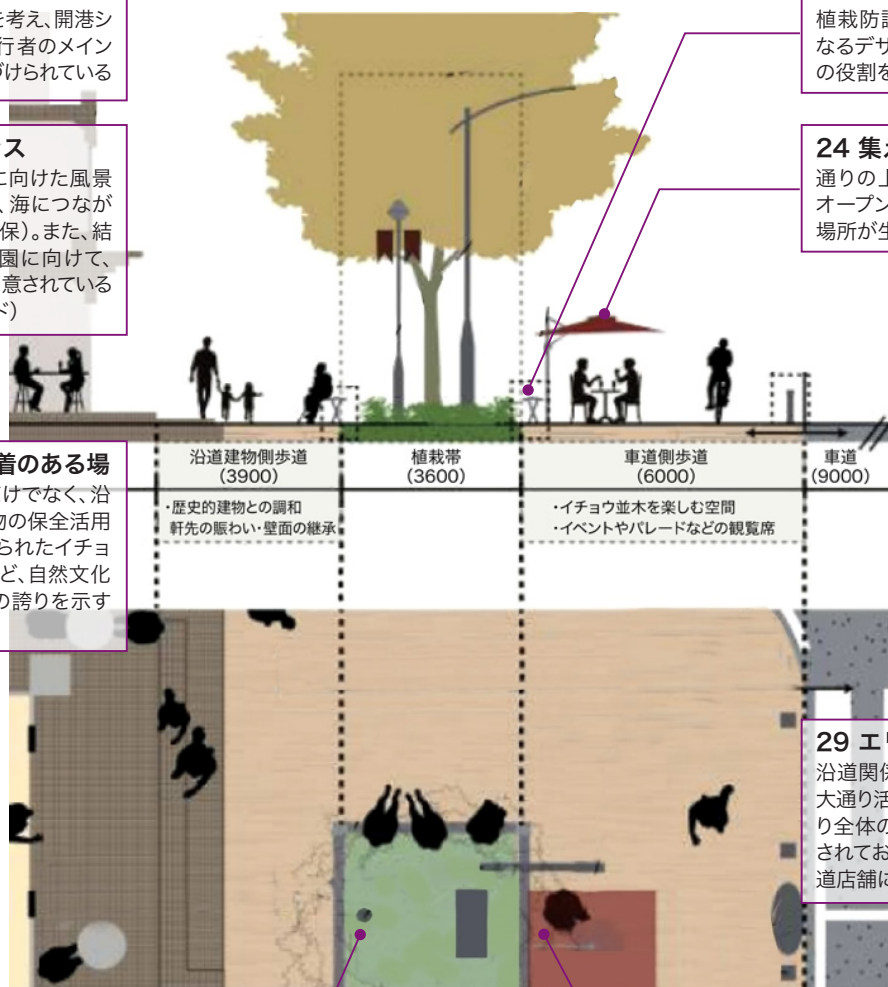
通りの上に、沿道店舗からのオープンカフェが設けられ、居場所が生まれている

29 エリアマネジメント

沿道関係者を中心とした「日本大通り活性化委員会」により、通り全体の使い方がマネジメントされており、オープンカフェも沿道店舗によって実施されている

22 気候に対応した快適な歩行環境

イチョウ並木が適度な木陰を用意して、夏の暑さを和らげる



横浜市日本大通りは、明治初期(開港後)の関内に設けられた(イギリス人技師ブラントン設計)、防火帯としての役割と官庁街のメインストリートの役割を併せ持つ目抜き通りである。1970年代には、横浜市都心臨海部では、「みなと」と「まち」をつなぎながら、歩行者空間と緑による面的なネットワークを構築する「緑の軸線構想」が提示され、様々な人間のための公共空間が整備された。特に日本大通りは、1990年代に、「開港シンボル軸」に位置づけられ、2002年の日韓W杯開催にもあわせて、歩行者中心の豊かなメインストリートに再整備された。そこでは、車両進入を最小限にとどめた歩車融合型の「並木道」

を意識して、開港の歴史を結びながら、港への通景空間を確保し、設計当初のあり方も意識しつつ、イベントやパレードにも対応できる「広場道」をコンセプトにして検討された。

具体的には、①道路幅員36mのうち、歩道は片側13.5mずつふんだんに設けられており、歩行者動線が、関東大震災の震災復興で設けられたイチョウ並木の植栽帯を挟んで両側に配分され、片方でオープンカフェ等の滞留行動を誘発しても、他方で自由な歩行が可能になっている点、②段差の少ない歩車道境界として移動安全性やイベント利用に対応している点、③イベント時に対応した可動のボラード・プランターの設置、④各所に気



日本大通り(幅員36m)は、2002年の整備で、車道9m、片側13.5mの歩道は、中央にイチョウ並木の植栽帯を挟んで両側に歩行者空間を設置するような断面構成となったため、歩道空間の一部にオープンカフェが設置されても、通行(リンク)と滞留(プレイス)が両立するようなバランスでデザインされている。また、沿道にある歴史的建造物の保全活用や、震災以降に設けられたイチョウ並木を大切するなど、自然文化も大切にしている地域の誇りとなる街路が生まれ出されている



歩道空間には、沿道店舗が設置したオープンカフェが設置されており(冬季を除く)、憩いの場や親しみの場が用意されている。沿道地権者などを中心に構成される「日本大通り活性化委員会」が、オープンカフェを始めとした通りの利用をマネジメントしており、時には、車両通行止めにして行われるイベントもある



日本大通りは、港に向けての視線を大切にすべく、道路に設置される附属物は植栽帯の中に集約し、海に向けての通景空間を確保して、見通しの良い風景が生まれている。また、横浜の都心臨海部では、結節点から海のある山下公園まで回遊できるように、たどると海まで行ける絵タイルが舗装に埋め込まれている。さらに、植栽防護柵を工夫して、自然と座りたくなるようなデザインとすることで、あたかもベンチであるかのように豊かに利用されている

軽に腰掛けられる「座れる」植栽防護柵の設置、⑤イチョウ並木の植栽帯内に道路付属物(自動車灯・建物サイン・変圧器等)を一列に配置することによる港への通景空間の確保、⑥沿道の歴史文化や緑に合わせた街路舗装や設え、⑦建築物の高さや壁面位置、ファサード・意匠に対するデザインガイドラインなどを通じて、歩きやすく、活動しやすい、歩きたくなるストリートが

生まれている点などが特徴である。

また、こうした環境を豊かに維持するために、沿道の地権者や関係者で構成される「日本大通り活性化委員会」が組織され、オープンカフェやイベントのあり方を中心に様々な議論や調整を行っており、公民連携もこの組織を介して行うなど、「ストリートマネジメント」が展開されている。

参考文献

- ・野原卓。(2019)。「横浜市の日本大通り、元町商店街:官民連携によるハードとソフトの一体型マネジメント」、『ストリートデザイン・マネジメント:公共空間を活用する制度・組織・プロセス』、学芸出版社、96-99
- ・高橋亮、野原卓、& 三浦詩乃。(2019)。「都心部における公共空間としてのストリートの役割とその実態に関する研究 横浜市日本大通りにおける都市政策上での位置づけ・空間利用実態・利用者意向に着目して」、『都市計画論文集』、54(3)、967-974。